

## 小早川隆景・浮城を活用した観光戦略に関する決議

本市は、戦国武将である小早川隆景によって三原城が築城され、明治時代以降、大工場の立地により近代工業都市として発展してきたが、地域経済を牽引していた大企業の事業縮小や産業構造の変化により、かつては賑わっていた中心市街地の活気が失われ、経済情勢も低迷状態が続いている。本市がこれに変わる新たな活気を作り出すには、従来の企業誘致に頼るだけではなく、違った発想や別の視点による地域経済の活性化が求められている。

そうした中、本市においては、国内外から人の流れを戦略的に創出する地域活性化の取組として、観光を産業の柱の一つとすることを目指すとされており、その実現のために、平成31年に「第2次三原市観光戦略プラン」が策定され、観光による地域経済の活性化や交流人口の拡大に向けた施策が進められている。

しかしながら、本市の観光振興には、核となる明確なコンセプトがなく、地域資源を活用したコンテンツが作り出せていないことや観光客のターゲットが不明瞭であるといった課題があり、訴求力の高い観光施策が実践されているとは言えない。このため、市内での滞在時間が比較的長く、観光消費額が高いと見込まれる県外からの観光客を呼び込むことができていない現状がある。

本市を訪れる観光客を増やし、滞在時間や消費額を伸ばすには、本市の礎となった小早川隆景を街のシンボルに位置づけ、小早川隆景・浮城を感じることができる街をコンセプトに、観光コンテンツに本市の歴史や文化に裏打ちされたストーリー性を持たせることで、本市の独自性を創出することが必要である。

また、県外からの新たな顧客を呼び込む方策として、コアな歴史ファンの多い「歴女」をターゲットにした観光施策を行うべきである。

以上を踏まえ、本市議会は市長に対し、歴史資源に特化した次の観光政策を提言するとともに、政策の実現を求める。

### 1 隆景歴史館の設置

本市の中心市街地には、歴史や街の成り立ちを伝える拠点が存在していない。そこで、本市の歴史や文化の情報発信の拠点として、日本で唯一、三原城の遺構である本丸の上に存在しているという全国でも

珍しい三原駅の立地を生かし，駅構内に「隆景歴史館」を設置することで，観光客が本市の歴史や文化を身近に感じられる場所を創出すること。

## 2 三原城の街割り巡りの実施

本市の歴史や文化に触れる仕掛けがないため，観光客が訪れた場所に合わせて情報を提供することができる機器「ヒアラブル端末」や現地を古地図と照らし合わせることができるアプリ「三原地図さんぽ」などのICTを活用することで，観光客の創造力を高める取組を行ったり，地図案内表示板を設置し，分かりやすい観光情報を届けるようにするなど，観光客が本市の歴史や文化に触れながら，三原城跡周辺を散策できるようなコースを設定し，リピーターの増加を図ること。

## 3 濠の水質浄化対策の実施

現在，三原城本丸の濠は，水の濁りが常態化しており，観光客が見て美しさや癒しを感じられる状況となっていない。このため，先進的な浄化方法として注目されている「還流ビオトロン方式」を活用した浄化を行うことで，美しい濠やそこで泳ぐコイを見て，癒しやくつろぎを感じることができるような環境を作ること。

## 4 効果的な情報発信

現状では，本市の認知度は決して高いとは言えず，観光客に対し訴求力を高めるための情報発信は不可欠である。このことから，ゲームメーカーが製作した小早川隆景のキャラクターや本市の魅力を伝える映像等を最大限活用し，他市にはない本市のイメージを確立し，発信していくなど，戦略的な観光プロモーションを実施することにより，本市の認知度の低さを克服し，新たな観光客の来訪につなげること。

以上，決議する。

令和2年9月30日